



新学校図書整備計画により、平成19年度から5年間で各学校の図書が整備されます
(大沢小学校の図書室)



道又秀悦議員

教育行政

町内小中学校の図書整備状況は 平成23年には標準冊数に達する

質問 学校図書の整備については、新学校図書整備計画により進めるとのことである。学校図書の整備状況はどうなっているか。

沼崎町長 昨年末の調査の結果、文部科学省が定めている学校図書館蔵書の標準冊数に達している学校は2校。充足率50%〜60%台が5校、70%〜90%台が4校で、全体が標準冊数に達

するためには約1万5000冊の整備を要する状況にある。

質問 「新学校図書整備計画」とはどういうものか。また、図書館車が廃止されたことにより学校巡回がなくなるが、その対応をどうするのか。

沼崎町長 図書館車の学校巡回がなくなることへの対応策として、新たに新整

備計画を実施することにしたもので、平成19年度から平成23年度までの5年間で、学校図書購入費として新たに825万円を増額し、通常分と併せた総額1975万円で学校図書を整備するものである。

このことにより5年後に各学校は、文部科学省が定めている標準冊数に達するものと考えている。

水産振興

「春ガキ」のおいしさを売り込め

販路拡大キャンペーン事業でPR

質問 施政方針で町長は、「春ガキ」のおいしさを多くの人に知ってもらい、販路を開拓することが養殖業者の収入確保のために必要である。山田湾産「春ガキキャンペーン」など販路

開拓を支援することとある。期待をこめて今後の取り組みを聞きたい。

沼崎町長 沿岸地区の魚屋・スーパーなどでは、5月頃まで「むき身ガキ」が流通しているが、差別化し

た「春ガキ」の流通は宮古地区の「花見ガキ」に限られている。春のカキは太って美味しいと生産者の間で話が出るが、それを販路に乗せようとする動きにならない。町では、山田湾産「春ガキ」の美味しさを消費者に浸透させる具体的行動が必要と考え、平成18年度から販路拡大キャンペーン事業に取り組んだ。内容は、県内陸部のスーパーでの試食会を通じて、山田湾産「春ガキ」の美味しさをPRし、スーパーの流通に乗せようとするものである。

町の考えを聞く



3月18日に開催された「三陸山田カキまつり」町内外から15,000人の行楽客が訪れ、にぎわいをみせていました